おばあちゃんが残してくれた

"備え"をご近所にもおすそ分け 仙台市青葉区 30代 女性 会社員 信号も止まり、街中がまさにパニックに近い感じ 震災後は、親戚や親しい知人などの連絡先となる

すが、携帯電話に連絡先が入っていても、電池 が切れていると何の情報も得られないわけで 母とふたり、不安になりながら最低限の片づけを

している時に、亡くなったおばあちゃんが残して くれた"防災袋"が出てきたんです。中には簡易力 イロもたくさん入っていたので、早速ご近所に配 りました。 あの日は夕方から雪が降ったので、わずかな暖で

になっているなか、やっとの思いで自宅に帰って

きたものの、家の中はキッチンもリビングも物が

散乱状態。

あっても、とても喜ばれました。もちろん私も母も "おばあちゃんありがとう"と何度も何度も感謝し ました。

薬持ち出せず、避難所で大弱り

飲んでいるから、どんなときも自分の薬は肌身は

来てくれたんです。それにはほんとうに頭が下が

りましたね。

すから。 常日頃から"備えておくこと"の大事さをわ かっていたつもりでしたが、具体的な行動とな るとなかなかできないもの。 おばあちゃんの気遣いに助けてもらってから は、悔いを残さないためにも"思ったらすぐや る"ことを実行しています。

電話番号などを、小さな紙にメモしてサイフの中

に入れ、常に持ち歩くようになりました。当然で

能登半島地震での体験エピソード

ら、前もって何かにわけておいて、いつでも

輪島市 60代 女性 引き出しに置いていたから、とっさに持ってこ 年寄りの人がたくさんおるでしょう。避難所に られなかったという人が多かったですね。だか 行って感じたのは、お年寄りはみんな常にお薬を

~自分の薬は肌身はなさず~

なさず持っていなければいけないなということ もって逃げられるようにしておかなければい けないとつくづく思いました。 です。 夜中の2時ごろ、おばあさんが避難所のすみで ちょこんと座っていたので、わけを聞くと、「リュ ウマチで痛くて眠られん」と言うのです。で、連絡 すると、すぐにお医者さんが看護婦さんと一緒に

先生が「これを飲んで」と痛み止めの薬を渡して いると、それを見て「私にも薬をください」と言う

人がいっぱいいました。 平成20年8月末豪雨での体験エピソード

バスタオルの防災ずきんで コミュニケーション 名古屋市 70代 女性

す。仲間の家で集会したり、商店街の婦人会の方

そのずきんは、簡単に言うと、どこの家にもある

パット2つを入れてたたむというものです。で、軍

手はポケット代わりにもなりますから、その中に

お金だとか健康保険証の控えだとかを入れてお

防災袋というと、例えば水とか、トイレで使うもの

とかを思い浮かべますが、そういうものの中に

は、避難所に行けば支給されるものもあって、意

外にタオルとかハブラシがほしかったなと思いま

す。お金はいったん避難してしまえばそこから出

られないので、すぐに使うことはありませんでし

でも、ハブラシって、ないとすごくストレスになる

んですよね。会社の同僚にも、ハブラシを買い忘

れて、近くのお店まで戻ったおかげで、水がつい

かなり強い揺れが5分以上続いたので、これは津波だなと

いうのは頭にありました。宮古市にある三陸鉄道の本社2

階から、まちの様子を見ていると、何か水がこっちへ来て

いるなと。水がど一つと来るなら、すぐに津波だとわかっ

たんですが、少しずつ水が上がってくる感じで、揺れで水

道管でも壊れたかなと最初は思いました。そのうちに、ご

みがぷかぷか浮かんで来るし、最後には車が来たんで、津

波だと。想定ではここまで来ないはずだったのですが、ま

ちの方からは、みんな走って逃げてくるので、うちも危な

避難所の運営に重点を置きました。総務部の職

員が食料担当となり、花巻市を中心に内陸へ買

いだしに行きました。現金がないので市役所の

名刺を提示しての買物でしたが、量販店、コンビ

震災3日目の14日にやっと衛星電話が使え

るようになり、関係機関と情報をとりあえる

それまでは、2万人という想定もしていない

数の避難民の対応策に、災害対策本部として

地震発生時は造船所の事務所にいました。海の

近くですから過去の経験もたくさんあります。避

難警報が出る前に従業員への避難指示を出しま

した。家族が心配だと自宅に戻る人もいました

が、幹部は残り、船をどうするかの打合せをし

て、とりあえずもやいからロープを外すことにし

幸い、会社の裏が山なのですぐに逃げられると

思っていました。しかし、引き潮がすごく、これは

今までの倍の津波が来ると直感して、作業は中

断して山に避難することにしました。

二など多くの協力を得ることができました。

ようになりました。

た。

ました。

た。

の集会所に出かけていったりして。

マスクやトレッキングなど使う人が自由に選ぶ

けて縛るようにするんですけど、縫ったところ

に百円均一のお店で買った笛をぶら下げて、

るので一石二鳥ですね。

バスタオルに、軍手や下着類を、しっかり縫いつけ 「何かあったらこの笛を吹いて知らせてね」っ ちゃうと取れないですから、しつけ糸で荒く縫い て言って。みんなでおしゃべりしながら作ると つけておき、そこにクッション代わりになる尿取り お互いの気心も知れるし、地震への意識も高ま

私たちは、地震対策として一人暮らしの方たち 常備薬なんかは、時たま替えなきゃいけないか

に、防災ずきんの作り方を教えてまわっていま ら、外側へ縫いつけますし、中に入れるものは

たちを集めたり、教えてほしいと言われれば地域 ことができます。最後にバスタオルにヒモをつ

くんです。 平成18年梅雨前線による豪雨での体験エピソード

ないと不自由だったハブラシ 諏訪市 20代 女性 通常あることがあたりまえなものは、ちょっと したものでも、ないとすごく不自由を感じるも のですね。避難する時に、自分の場合は何が絶 対必要なんだろうと、考えておいたほうがいい なと思いました。

た道路の渋滞にはまってしまって、帰ってくるの に1時間かかった人がいましたよ。

ワンセグや災害優先携帯も ハツァリーか命

宮古市 50代 男性 鉄道会社職員

たのです。

津波が収まってどんどん引いてったので、夕方こっち

へ戻ってきました。でも、ここは、停電でテレビが全く

だめだったんで、東京の人より状況がわからなかった

かもしれないですね。携帯電話のワンセグを使うと、

バッテリーの消耗が早いんで、切れたらどこで充電す

るんだってことで、ワンセグも頻繁に使いたくなかっ

その中で、地震1年前、新社長の方針で、災害時優先携

帯電話を幹部社員らに持たせていたので、地震直後の

東日本大震災での体験エピソード

いからと、立体交差の道路の上に避難しました。 連絡には大いに役立ちました。でも、通信用アンテナの 停電していたので、取り出してきたラジオを抱えて持って バッテリーがなくなったためか、2,3日で通じなくな 行って聞いていると、どんどん被害が拡大している。社員 り、県の振興局にある衛星携帯を順番待ちして使わせ てもらいました。大規模災害時は、バッテリーが命であ が持っていたワンセグでテレビを受信できたので見てい ると、海岸沿いはとんでもないことになっているというのると思い知らされました。 が、少しずつわかってきました。

東日本大震災での体験エピソード

避難所食料の買いだしは

名刺で支払い

ペットボトルで即席湯たんぽ ~中学生がお年寄りに配る~

裏山で一晩過ごして、翌日は集団で沢を4つ

越えて、避難所となっている中学校へと向か

うことにしました。そこは、翌日が卒業式だっ

たため、多くの学生が残っていたのと、近く

の老人ホームから避難してきた人たちであふ

中学生たちが、まきをかき集めてきて火をた

き、それを利用してペットボトルを使った即席

湯たんぽを作り、お年寄りたちに配りました。

『三人寄れば文殊の知恵』といいますが、たく

さんの人がいれば、いろいろなアイデアが浮

特に下着は深刻で、5日間おふろに入れずと

ても不快な思いをしました。寒い季節だった

からよかったけれど、あれが汗をかく季節

震災5日目になって、義姉の家でおふろに入

れてもらおうと思えたのは、下着が支給され

たからです。きれいな下着なしではおふろに

今では、いざというときの避難用のリュック

を玄関に用意していますが、その中にはきれ

いな下着が1組、しっかりと入っています。

「非常用持ち出し袋には下着1組を」。これが

支援物資として届いた大小のバックやリュッ

クはあっという間になくなりました。袋類がこ

んなに貴重とは、今回の震災で初めて知りま

今後、何かあって避難しなければならないと

きには、軽くてかさばらず丈夫な手提げ袋を

いくつか持ち出したいと思います。実は震災

前は非常用持ち出し袋も何も用意しておら

ず、「これではいけない」と強く思いました。こ

れからは必要なものをひとまとめにしてお

き、いつでも持ち出せる準備をしておかなけ

入る気にもなれません。

震災の教訓です。

だったらどうなっていたことかと思います。

が、もう少しきちっとした情報交換をしてい

ればよかったと反省しています。

気仙沼市 50代 男性 市役所職員 あの状況では無理であったかもしれません 市役所の災害対策本部は食料確保を担当して、

やるべき仕事、市としてやるべき仕事、マン パワーの比重のかけ方にも温度差がありまし 東日本大震災での体験エピソード

気仙沼市 60代 男性 造船所相談役

れていました。

かぶものです。

東日本大震災での体験エピソード

震災以来、

避難用リュックに下着常備

新地町 70代 女性 農業

したいちごをパック詰めしているときでした。と にかく揺れがひどく、とっさに竹やぶに逃げ、辺 りを見渡すと、土蔵の壁がドサッと崩れ落ちまし た。これは大変だ! 今までにこんなことはな かった、と思ったとき、母の話を思い出しまし た。母は昭和8年の津波を経験しており、「地震 が来たら逃げろ」と、繰り返し言っていたんで す。そこで家族や近所の親せきに「逃げろ! 逃 げろ!」と言って回って、自分も急いで避難しま した。 家はすべて津波に流されました。その後2か 月は避難所生活でしたが、避難したころ、一

避難所の大小にかかわらず、集団生活では荷物

がばらばらにならないように収納できる入れ物

が必要です。特に今回は避難所生活が想像以上

に長引いたこともあり、荷物の整理に苦労した

着の身着のままで逃げ出したため、バッグ類を

持っていなかった人も多く、「大きな手提げ袋が

ほしい」という声をあちこちで耳にしました。手

提げ袋がいくつかあると、荷物を仕分けして入

れておけるし、必要なときにすぐに持ち歩ける

方々は多かったようです。

ので箱などよりも便利なのです。

番困ったのは着替えがないこと。

我が家はいちご農家で、震災が起きたのは収穫

東日本大震災での体験エピソード 大きな手提げ袋が 避難所生活で大活躍

新地町 60代 女性 主婦

した。

も家族や大切な友人たちと連絡をとりあえる 手段をきっちりと話しておくべきだと思いま

東日本大震災での体験エピソード

テレビ台から落ちたり、戸棚の中のものが落ち 普段から電気に頼った生活をしていたことに 改めて気づかされました。 もし地震の前に戻れるのなら、電気がなくと

した。

作った手回し充電の懐中電灯に携帯電話の充電 ケーブルが付いていたので、それで充電してい ました。 くこの日の1日前に戻れるとした5…人

リュックがほしいという声も多かったです。貴重 ればと思っています。 品は絶えず身につけておかなければいけません。 が、両手は自由にしていたい。だから背中に背負 うリュックが重宝なのです。 電気がない生活に悪戦苦闘 懐中電灯から携帯電話に充電を~

> 高校を卒業して大学入学前の春休み期間中に震 震災の影響で大学の入学式が中止になりまし た。しばらくの間、家の電話やネット回線も止 その日は母と家にいて、揺れがおさまるまで家 まっていたため、大学の入学式が中止になっ の中でうずくまっていました。茶の間のテレビが たという情報を得るのに苦労しました。

仙台市泉区 10代 女性 学生

てきたりしました。 石油ストーブがありましたが、余震が怖かったの で母と2人で自宅前に停めてある車の中で暖房 をつけて過ごしました。 母の携帯電話がメールは受信しても返信ができ なくなってしまったので、家族へのメールを自分 の携帯電話からしていました。携帯電話の充電 がどんどん減っていくので、中学時代に授業で

災が起こりました。

00

あなたならどう信言332 出典:内閣府 一日前プロジェクト | https://www.bousai.go.jp/kyoiku/keigen/ichinitimae/index.html Copyright © Create Link Co., Ltd. All Rights Reserved **Ario** SEVEN PARK GRANDTREE